

令和2年度 主な事業計画

事業項目	実施時期
第1 消防思想普及啓発事業	
1. 火災予防運動の推進	年間
2. 殉職者慰霊に関する事業	
(1) 秋田県消防職・団員慰霊祭	令和2年9月8日
(2) 全国消防殉職者慰霊祭	令和2年9月17日
3. 広報紙の発行とホームページの開設	
(1) 新聞「消防秋田」の発行(1,100部)	隔月(原則偶数月)
(2) ホームページでの情報提供	年間
第2 地域消防防災力向上推進事業	
1. 消防団員の教養研修	
(1) 支部が行う現地教養研修	年間
(2) 第73回秋田県消防大会の開催(鹿角市)	令和2年6月20日
(3) 各種研修会等への参加	
・女性消防団員教育	令和2年10月10日～11日
・全国女性消防団員活性化大会(徳島市)	令和2年11月19日
・消防団員指導員研修	令和2年11月28日～29日
・第47回消防団幹部特別研修	令和3年1月12日～15日
・第20回消防団幹部候補中央特別研修(男性)	平成3年2月3日～5日
・第20回消防団幹部候補中央特別研修(女性)	平成3年2月17日～19日
2. 消防操法大会の開催	
(1) 第57回秋田県消防操法大会	令和2年8月22日
(2) 第27回全国消防操法大会(千葉県)	令和2年10月16日
3. 消防団活動の活性化	
(1) 全県消防団長研修	令和2年11月13日
(2) 女性消防団ネットワーク会議	令和2年12月5日
(3) 若手消防団員活性化推進会議	令和3年2月6日
第3 消防職団員福利厚生事業	
第4 消防互助会事業	
第5 会議の開催	
(1) 定時評議員会	令和2年5月13日
(2) 理事会	年3回開催
(3) 会計監査	令和2年4月16日
(4) 消防実務担当者会議	令和2年6月5日

秋田県消防協会第三回理事会在二月二十八日(金)、秋田市の「イヤタ力」で開催され、令和2年度事業計画(案)や収支予算(案)などが承認さ

**令和2年度
事業計画・収支予算承認される**
秋田県消防協会



れたほか、第七三回秋田県消防大会や第五七回秋田県消防操法大会の開催概要などについて協議しました。また、秋田県から、本年秋頃に開催が予定されている「地域防災力向上シンポジウム」(主催・総務省消防庁他)の概要について説明がありました。

題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 高橋正尚
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
http://www.shoubou-akita.or.jp
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp
印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
http://www.matsubarainsatsu.co.jp

令和2年度収支予算 (単位:円)

勘定科目・主な事業費	予 算 額
事業活動収入計	29,679,900
消防互助会掛金	5,280,000
事業収益	165,000
補助金等	11,766,600
負担金	6,511,000
年会費	5,430,000
その他収入	527,300
事業活動支出計	29,890,000
火災予防運動の推進	900,000
殉職者慰霊事業	925,000
現地教養研修費(支部研修)	950,000
秋田県消防大会費	903,000
秋田県消防操法大会費	1,411,000
支部消防操法大会助成費、表彰費	734,000
全県消防団長研修会費	260,000
女性消防団ネットワーク会議費	308,000
若手消防団員活性化推進会議費	411,000
その他支出	23,088,000
当期一般正味財産増減	△ 210,100
一般正味財産期首残	108,400,300
一般正味財産期末残	108,190,200
基本財産	3,000,000

令和元年度 消防功労者表彰

令和元年度の消防功労者表彰の受賞者が決まりました。消防庁長官表彰が七九名の個人の方々と一四機関、秋田県知事表彰が三町村、日本消防協会会長表彰が四機関と六四名の個人の方々です。

三月一二日(木)秋田県庁第二庁舎で予定されていた表彰式は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止されました。

そのため、表彰状を各市町村及び各支部に送付し、各地域において伝達していただきました。

受賞されました皆様の永年にわたるご功績に対し、心から敬意と感謝を申し上げます。

消 防 庁 長 官 表 彰

◆永年勤続功労章 (79名)

秋田市消防本部	消 防 監	佐々木 洋 行	能代山本広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	高 杉 誠
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 監	千 葉 和 彦	秋田市消防本部	消防司令長	小 野 秀 悦
大館市消防本部	消防司令長	兜 森 和 晴	由利本荘市消防本部	消防司令長	小 松 孝 幸
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	佐々木 浩 浩	秋田市消防本部	消防司令長	佐 藤 匡 匡
由利本荘市消防本部	消防司令長	佐 藤 剛 剛	横手市消防本部	消防司令長	鈴 木 勉 勉
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	鈴 木 尚 老	鹿角広域行政組合消防本部	消防司令長	奈 良 巧 一
五城目町消防本部	消防司令長	長谷川 誠 誠	大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	本 間 利 貞
横手市消防本部	消防司令長	松 井 正 一	能代山本広域市町村圏組合消防本部	消防司令長	諸 沢 昭 夫
男鹿地区消防一部事務組合消防本部	消 防 司 令	上 村 誠 誠	男鹿地区消防一部事務組合消防本部	消 防 司 令	木津谷 嘉 人
湖東地区消防本部	消 防 司 令	澤 井 善 築	北秋田市消防本部	消 防 司 令	藤 島 信 夫

秋田市消防団	団 長	大 島 昌 良	大仙市消防団	副 団 長	池 田 君 男
秋田市消防団	副 団 長	上 野 綱 一	潟上市消防団	副 団 長	菊 地 浩 浩
八郎潟町消防団	副 団 長	小 林 浩 二	東成瀬村消防団	副 団 長	佐々木 喜久藏
大仙市消防団	副 団 長	佐々木 博 幸	にかほ市消防団	副 団 長	佐 藤 幸 毅
大仙市消防団	副 団 長	佐 藤 洋 悦	仙北市消防団	副 団 長	下 田 忠 浩
北秋田市消防団	副 団 長	高 橋 伸 一	秋田市消防団	副 団 長	戸井田 喜美雄
湯沢市消防団	分 団 長	阿 部 博 博	秋田市消防団	分 団 長	石 井 新 一
大館市消防団	分 団 長	石 澤 一 雄	羽後町消防団	分 団 長	石 綿 久 也
湯沢市消防団	分 団 長	伊 藤 一 一	男鹿市消防団	分 団 長	江 畑 政 紀
男鹿市消防団	分 団 長	大 野 一 美	北秋田市消防団	分 団 長	加 賀 隆 之
湯沢市消防団	分 団 長	金 澤 義 博	八峰町消防団	分 団 長	金 谷 弘 美
秋田市消防団	分 団 長	鎌 田 正 正	秋田市消防団	分 団 長	鎌 田 信 義
大館市消防団	分 団 長	神 成 忠 行	由利本荘市消防団	分 団 長	木 内 健 悟
大潟村消防団	分 団 長	工 藤 和 博	北秋田市消防団	分 団 長	工 藤 茂 美
美郷町消防団	分 団 長	久 米 春 男	三種町消防団	分 団 長	近 藤 優 優
大館市消防団	分 団 長	佐々木 忠 弘	由利本荘市消防団	分 団 長	佐々木 千 秋
由利本荘市消防団	分 団 長	佐々木 善 永	鹿角市消防団	分 団 長	佐 藤 智 智
湯沢市消防団	分 団 長	佐 藤 齋 齋	横手市消防団	分 団 長	佐 藤 洋 幸
男鹿市消防団	分 団 長	佐 藤 良 一	五城目町消防団	分 団 長	猿 田 豊 和
大館市消防団	分 団 長	下 山 茂 茂	秋田市消防団	分 団 長	進 藤 誠 輝
湯沢市消防団	分 団 長	菅 原 正 則	井川町消防団	分 団 長	鈴 木 正 彦
横手市消防団	分 団 長	高 橋 千 登 勢	横手市消防団	分 団 長	高 橋 広 三
湯沢市消防団	分 団 長	武 石 吉 廣	大館市消防団	分 団 長	立 石 正 敏
横手市消防団	分 団 長	千 田 祐 二 郎	仙北市消防団	分 団 長	千 葉 雄 清
能代市消防団	分 団 長	塚 本 陽 一	横手市消防団	分 団 長	戸 巻 敦 司
横手市消防団	分 団 長	藤 原 勉 勉	鹿角市消防団	分 団 長	前 田 幸 栄
大仙市消防団	分 団 長	武 藤 和 彦	由利本荘市消防団	分 団 長	村 上 吉 和
由利本荘市消防団	分 団 長	茂 木 和 也	能代市消防団	分 団 長	山 田 昌 行
大仙市消防団	副 分 団 長	小 松 裕 一	藤里町消防団	副 分 団 長	佐 藤 之 彦
小坂町消防団	団 員	木 村 久 久			

◆竿頭綬 (1 消防機関・1 消防団)

大館市消防本部、大館市消防団

◆賞状 (13団体)

秋田市消防本部、横手市消防本部、大館市消防本部、由利本荘市消防本部、北秋田市消防本部、にかほ市消防本部
 五城目町消防本部、湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部、能代山本広域市町村圏組合消防本部
 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部、鹿角広域行政組合消防本部、男鹿地区消防一部事務組合消防本部、湖東地区消防本部

秋 田 県 知 事 表 彰

◆無火災表彰 (3町村)

藤 里 町、井 川 町、大 瀧 村

日 本 消 防 協 会 長 表 彰

◆表彰旗 (1消防団)

瀧上市消防団

◆竿頭綬 (3消防団)

上小阿仁村消防団、八郎瀧町消防団、にかほ市消防団

◆功績章 (18名)

鹿角市消防団	分 団 長	湯 瀬 誠 喜	大館市消防団	副 分 団 長	高 清 水 タマ子
北秋田市消防団	副 団 長	佐 藤 修 助	上小阿仁村消防団	分 団 長	武 石 忠 夫
三種町消防団	副 団 長	小 林 憲 夫	大瀧村消防団	団 長	谷 口 良 一
男鹿市消防団	団 長	吉 田 陽 一	秋田市消防団	分 団 長	佐 藤 稔
秋田市消防団	分 団 長	田 村 一 之	由利本荘市消防団	副 団 長	阿 部 一 彦
にかほ市消防団	副 団 長	金 子 英 紀	大仙市消防団	副 団 長	齊 藤 博
大仙市消防団	副 団 長	豊 巻 一 男	横手市消防団	副 団 長	高 橋 弥左工門
横手市消防団	分 団 長	高 橋 和 雄	横手市消防団	副 団 長	佐 藤 進
湯沢市消防団	分 団 長	伊 藤 一	湯沢市消防団	分 団 長	武 石 吉 廣

◆精 績 章 (46名)

小坂町消防団	副 団 長	亀 田 晃	鹿角市消防団	分 団 長	高 橋 実
大館市消防団	分 団 長	福 士 昭 弘	大館市消防団	分 団 長	杉 田 乾一郎
大館市消防団	分 団 長	佐 藤 正 彦	大館市消防団	部 長	伊 藤 美 千
北秋田市消防団	団 長	戸 島 丈 夫	上小阿仁村消防団	副 団 長	加 賀 谷 和 敏
能代市消防団	分 団 長	戸 松 博 美	八峰町消防団	分 団 長	三 浦 務
三種町消防団	分 団 長	近 藤 優	能代市消防団	分 団 長	清 水 弘
男鹿市消防団	副 団 長	齊 藤 英 一	瀧上市消防団	副 団 長	門 間 勉
五城目町消防団	分 団 長	猿 田 豊 和	八郎瀧町消防団	副 団 長	小 林 浩 二
秋田市消防本部	消防司令長	双 木 信 彦	秋田市消防本部	消防司令長	伊 藤 博 之
秋田市消防本部	消防司令長	松 本 勉	秋田市消防本部	消防司令長	木 山 強
秋田市消防団	分 団 長	石 黒 望	秋田市消防団	分 団 長	櫻 庭 信 一
由利本荘市消防団	分 団 長	三 浦 九十九	由利本荘市消防団	分 団 長	今 野 稔
由利本荘市消防団	分 団 長	渡 辺 憲	由利本荘市消防団	分 団 長	佐々木 善 永
由利本荘市消防団	分 団 長	村 上 憲 四 郎	にかほ市消防団	分 団 長	三 浦 仁
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	消 防 正 監	鈴 木 良 則	大仙市消防団	分 団 長	橋 本 浩 成
美郷町消防団	副 団 長	辻 清 己	仙北市消防団	副 団 長	下 田 忠 浩
美郷町消防団	副 団 長	大 坂 久 男	大仙市消防団	副 団 長	小 松 強
横手市消防本部	消防司令長	佐 藤 悟	横手市消防団	分 団 長	佐 藤 洋 幸
横手市消防団	分 団 長	柿 崎 孝 一	横手市消防団	分 団 長	藤 原 勉
横手市消防団	分 団 長	柴 田 克 弘	横手市消防団	分 団 長	佐 藤 晴 得
湯沢市消防団	分 団 長	梁 瀬 保 和	湯沢市消防団	分 団 長	大 井 清 一
羽後町消防団	分 団 長	原 田 千 代 志	羽後町消防団	分 団 長	瀬 川 隆
湯沢市消防団	副 分 団 長	藤 原 幸 雄	湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	消 防 司 令	栗 田 克 晴

**指揮幹部科現場指揮課程
第三期を実施しました**

災害時の指揮者となる、部長又は同等の実務経験を有する班長、副分団長、分団長を対象とした、消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課程を、三月一四日(土)から一五日(日)まで、秋田県消防学校において実施しました。

本課程は、部隊を取りまとめる知識・技術の修得を図ることを目的としております。

参加した皆さんは、真剣な取り組みで訓練に励み、現場指揮者としての職責の自覚、規律はもちろん、的確な現場指揮や安全管理などを学びました。



ガンズルによる放水訓練(防火衣完全着装)



エンジンカッターによる切断訓練

第3期 入校者名簿

消防団名	階 級	氏 名
鹿角市消防団	部 長	稲 垣 公 博
男鹿市消防団	副分団長	三 浦 肇
男鹿市消防団	部 長	鎌 田 昭 則
秋田市消防団	部 長	加賀谷 速 人
秋田市消防団	部 長	齊 藤 一 夫
秋田市消防団	班 長	進 藤 弘 文
秋田市消防団	班 長	落 合 武
由利本荘市消防団	部 長	佐 藤 俊 之
由利本荘市消防団	副分団長	梶 原 和 夫
由利本荘市消防団	班 長	小 野 弘 喜
由利本荘市消防団	分 団 長	佐 藤 正 利
にかほ市消防団	部 長	佐 藤 裕
にかほ市消防団	副 部 長	菊 地 朋
大仙市消防団	部 長	佐々木 浩 士
湯沢市消防団	部 長	水 戸 義 昭
湯沢市消防団	部 長	加 藤 紀 秋
湯沢市消防団	班 長	阿 部 一 之
東成瀬村消防団	部 長	谷 藤 健 太



チェーンソーによる切断訓練



救助・救命訓練

教育訓練計画(総括表)

教育課程	教育実施期間		人 校 対 象 者
	日数	時 期	
初 任 教 育	166	R2.4.6~R2.9.18	新たに採用された消防職員
専 科 教 育	警 防 科	14	R2.9.24~R2.10.7 警防業務に従事している者又は従事しようとする者で、消防歴3年以上の者
	特 殊 災 害 科	9	R2.11.4~R2.11.12 警防及び救助業務に従事している者又は従事しようとする者で、消防士長以上の階級にある者
	予 防 査 察 科	12	R2.11.9~R2.11.20 予防業務に従事している者又は従事しようとする者で、消防歴3年以上の者
	火 災 調 査 科	12	R2.10.19~R2.10.30 火災調査業務に従事している者又は従事しようとする者で、消防歴3年以上の者
	救 急 科	53	R3.1.5~R3.2.26 救急業務に従事しようとする者
	救 助 科	28	R2.10.1~R2.10.28 35歳以下の救助業務に耐えうる体力を有している者
幹 部 教 育	9	R2.7.27~R2.8.4	55歳以下の消防司令以上の階級にある者
特 別 教 育	消防操法指導員講習 (女性消防操法指導員講習)	2	R2.5.12~R2.5.13 消防士長以上の階級で、訓練礼式・消防操法を担当する者
	1	R2.5.14~R2.5.14	
	ビデオ喉頭鏡追加講習	1	R2.11.6~R2.11.6 第38回救急救命士国家試験(平成26年度実施)以前に救急救命士資格を取得した者
救急救命処置再教育 (救急救命処置拡大追加講習)	3	R2.11.24~R2.11.26 救急救命士資格者で現在活動中である認定後5年目の者(薬剤投与認定救急救命士)	
基 礎 教 育	2	R3.3.6~R3.3.7	団員の階級にある者
幹 部 教 育	指 揮 幹 部 科 現 場 指 揮 課 程	2	R3.3.13~R3.3.14 部長又は班長(部長と同等)の階級にある者
	指 揮 幹 部 科 分 団 指 揮 課 程	2	R3.2.27~R3.2.28 分団長、副分団長の階級にある者
特 別 教 育	女 性 消 防 団 員 教 育	2	R2.10.10~R2.10.11 秋田県消防協会の推薦による女性団員
	日 消 指 導 員 教 育	2	R2.11.28~R2.11.29 団員の教育訓練を担当する者
	現 地 教 育		(内容・時間数について、地域の実情を勘案して実施) 市町村長等の推薦による団員
	一 日 入 校 教 育		(内容・時間数について、要望を勘案して実施) 市町村長等の推薦による団員
そ の 他	そ の 他 入 校 教 育		(内容・時間数について、要望を勘案して実施) 各種団体等の要請による

秋田県消防学校 令和2年度教育訓練計画

秋田県消防学校では、消防団員を対象とした教育訓練を行っています。そのうち基礎教育第66期、幹部教育指揮幹部科現場指揮課程第4期及び幹部教育指揮幹部科分団指揮課程第7期の実施要領を紹介いたしますので、参考にさせていただき、多くの団員が受講されることを期待しております。

なお、受講希望者は市町村消防団係にお問い合わせ下さい。

◎宿泊場所

秋田県消防学校「研心寮」

教育課程	基礎教育第66期	
目 的	入団して概ね3年未満の消防団員に対して、基礎的教育を行う。	
対 象 者	団員の階級にある者	
教育期間	令和3年3月6日(土)~3月7日(日)	
教 科 目 及 び 時 間 数	教 科 目 (教 育 内 容)	時 間 数
	訓練礼式(各個訓練、小隊訓練、通常点検要領)	2
	組織制度(消防団の組織制度)	1
	ポンプ操法(消防ポンプ操法)	2
	火災防ぎよ・安全管理(火災防ぎよ・安全対策)	2
	防災(災害対策)	1
	救急救助(応急手当、基本結索)	2
	行事その他(入校式、修了式等)	2
	計	12

幹部教育指揮幹部科現場指揮課程第4期		教育課程	幹部教育指揮幹部科分団指揮課程第7期	
現場指揮者としての職責を自覚させ、的確な現場指揮、安全管理の知識等を持たせる。		目 的	分団の指揮者としての職責を自覚させ、消防団の管理運営等、広い知識を持たせる。	
部長又は班長(部長と同等)の階級にある者		対 象 者	分団長、副分団長の階級にある者	
令和3年3月13日(土)~3月14日(日)		教育期間	令和3年2月27日(土)~2月28日(日)	
教 科 目 (教 育 内 容)	時 間 数	教 科 目 及 び 時 間 数	教 科 目 (教 育 内 容)	時 間 数
講話(職責と心構え)	1	教 科 目 及 び 時 間 数	講話(職責と心構え)	1
現場指揮、安全管理(現場指揮要領、事故予防対策)	1		防災(災害基本法と消防団の役割、地域防災計画に占める消防団の役割、長期化活動対策、惨事ストレス対策)	4
火災防ぎよ訓練(指揮要領、延焼拡大防止措置)	2		安全管理、組織制度(公務災害補償制度の概要、消防団組織の現況、消防団の充実強化等)	1
救助・救命訓練(倒壊家屋等からの救助救命と指揮要領)	4		災害対応図上訓練(分団本部活動・管理運営要領、災害情報収集、他機関との連携等)	4
避難誘導訓練(災害時の避難誘導・避難広報)	2		事例研究(消防団の充実強化及び活性化事例、安全管理事例)	1
災害情報収集・伝達訓練	1		行事その他(入校式、修了式等)	1
地域防災指導訓練(初期消火、応急手当及び簡易な救助の指導方法)	1		計	12
行事その他(入校式、修了式等)	2			
計	14			

特別研修に参加して

日本消防協会が主催する第四六回消防団幹部特別研修及び第一九回消防団幹部候補中央特別研修は、日本消防会館(東京都港区虎ノ門)において実施されました。

本県から参加した六名の受講者から報告がありましたので紹介します。



鹿角市消防団
副団長
青澤 尚人

令和二年一月二日から二四日までの三泊四日の日程で、日本消防会館において消防団幹部特別研修に参加させていただきました。

各都道府県から一名ずつ参加した本研修は、日本消防協会秋本会長の講話に始まり、日本の防火・防災分野を代表するエキスパートの講義を受講することが出来ました。惨事ストレス対策、危機管理、活動事例、気象の現況、地震災害、消防行政、防災対策及び火災防ぎよなどの講義のほか、元NHKアナウンサーによる話し方、話術など多岐にわたり、講義時間を忘れるほど、内容の濃い研修生活を送ることができました。

研修視察では東京消防庁江東航空センター及び東京消防庁危機管理センターを視察することができ、当該施設の最高水準の設備、装備等に触れることができたのは、大変貴重な経験であり、研修生からは感嘆の声が上がっていたのを記憶しています。

「課題研究討議」では研修生を六班編成に分け、各々の選んだ討議テーマに対して研修生同士が議論を交わし、最終日に成果発表を行いました。活発な意見交換がされ、複数の意見を集約する難しさを痛感しましたが、議論が深まるにつれ班の結束が強くなつていくのが感じられたのは本研修で得た喜びの一つでした。

現在の日本消防会館は老朽化による立て替え新築のため、今回が現施設での最後の研修です。節目となる機会に受講させていただいた関係者の皆様に感謝を申し上げるとともに、本研修で得た貴重な経験を後輩へ伝達することが課せられた役割と感じています。今後も、消防団幹部として精進していきたいと思えます。

おわりに、地域を超えた交流ができる本研修は、防火・防災の最前線を担う我々消防団幹部の最新情報のアップデートに必要な不可欠な場所であると認識しています。今後も本事業を継続し、機会があれば一人でも多くの消防団関係者が受講できることを望みます。

消防団幹部候補中央特別研修



北秋田市消防団
部長
長岐 準之介

二月五日から三日間、日本消防会館で開催されました消防団幹部候補中央特別研修に参加させて頂き、全国から一四一名の団員が一緒に集い議論を交わしました。

研修では、日本消防協会秋本会長の講話から始まり、消防団を中核とした地域防災力の充実強化、危機管理など各講師の講義、課題討議でそれぞれの地域、各消防団の問題点や解決に向けた取組を討議しました。

今回の研修で学んだ事を踏まえ、今後の消防団活動に生かしていければと思います。最後に、この様な機会を与えて頂いた各関係者の皆様に感謝申し上げます。



秋田市消防団
班長
三浦 秀

今回二月五〜七日に行われた幹部候補研修会に参加しました。

全国から消防団員が集まり、色々な意見を交換したり、地域の特色に

合わせた消防団活動などを報告し合いました。

そのなかで最も強く感じたのが、「消防団だけでなく地元地域との協力」と「体験・経験や努力は裏切らない」ということです。

消防本部だけでは回らないところを消防団が、消防団が回れないところを地元の地域防災が、とカバーすることの大切さを実感しました。

もう一つの体験や経験は、やはり火災現場等に出動した人、大会の操法操作した人、そういう人が自信を持って行動できることを改めて認識しました。

また、最近では火災出動だけでなく、大雨、洪水、山岳救助、山搜索など、色々な分野の仕事が、消防団にも回ってきます。必要とされるときに、いつでも動けるように知識を身に付けたいです。

今回のこの研修の内容を教訓に、これからの消防団活動にいかしていきたいです。



羽後町消防団
団員
藤原 尚

特別研修に参加させて頂き、全国の団員約一四〇名と共に消防団を取り巻く現状について話し合いました。

初日は日本消防協会秋本会長の講

話などを聴き、翌日のグループ討議では、消防団の悩みや取り組みについて熱い討議をかわしました。

私のグループでは、北は秋田、南は沖縄に至る各地の団員の方々から色々な事例を聞かせていただきましたが、中でも東日本大震災の話には衝撃を受けました。

最終日にも、広島県呉市の副団長が平成三〇年七月に起こった土砂崩れの活動事例を涙ながらに述べられ、消防団は火事だけを消していればいい訳ではなく、これからはあらゆる災害に対しての訓練を積み重ねなければいけないということを強く感じました。

最後に、今回御推薦・御協力いただいたすべての皆様に感謝申し上げます。報告といたします。



大館市消防団
団員
藤 島 睦 子

去る二月一九日から三日間、日本消防会館で開催された中央特別研修に参加させていただきました。

世間では新型コロナウイルスが猛威を振り欠席者もありましたが、全国からたくさんの方々の女性消防団員が参加しました。

秋本会長の講話の中に「自助共助の精神、自身を守れずして他人を助

けられるか」との檄にも近い心意気を感じさせる言葉が心に残りました。研修では、たくさんの方々の意見交換があり、消防団員であることの情熱を強く感じました。また、現在の会館での開催は最後となることや、屋上階にある消防殉職者慰霊碑をこの目で直に拝見できたことは貴重な体験であり、一生の思い出となりました。

学び多き研修であったとともに、全国の仲間とのネットワークもでき、今後、貴重な体験を生かして地域防災の中核を担えるよう邁進して参ります。最後に、このような機会をいただき、関係者のみなさまに感謝いたします。



仙北市消防団
団員
辻 薫

令和二年二月一九日〜二二日、第一九回消防団幹部候補中央特別研修に参加させていただきました。今回、全国から九四名の女性団員が参加し、これまでに約一七〇〇人が研修に参加しているとのことでした。

日本消防協会の秋本会長の講話を始め、沢山の講師の方から、様々な貴重なお話を伺い、これからの地域防災について考えた時、奮い立つ思いになりました。

全国各地から参加した仲間と一緒に

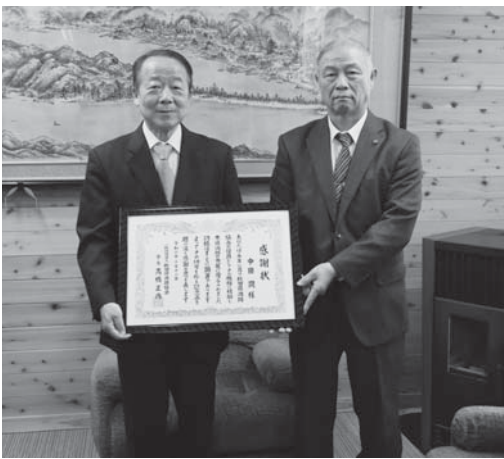
に、活動や課題、解決策などについて話し合いをした経験を少しでも地域に役立てていきたいと思えます。

中田前会長に
感謝状を贈呈しました

昨年九月に退任された前会長の中田潤氏に対し、協会から感謝状を贈呈しました。

秋田県消防功労者表彰式に合わせて行う予定でしたが、表彰式の中止を受け、三月二五日に高橋会長が中田氏を訪問し贈呈しました。

中田氏は、協会において副会長二年、会長六年余り務められたほか、日本消防協会の要職も歴任され、本県及び全国の消防職団員を取り巻く環境の改善にご尽力いただきました。誠にありがとうございます。



モリタ消防ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

シバラポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防

ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備

火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

火災想定訓練を

実施しました

四月五日(日)、春の火災予防運動の一環として、鹿角市役所駐車場において、火災発生防止、消防団員の技術向上と地域住民の防災意識の高揚を図ることを目的として、鹿角市消防団及び鹿角市消防団協力事業所から七五五名が参加し、火災想定訓練を実施しました。

訓練は、暴風警報及び火災警報の発令下、消防機関の厳重な警戒体制中に建物火災が発生。強風にあおられ延焼拡大し、逃げ遅れや負傷者が



発生したとの想定のもと、火災防ぎよ訓練をはじめ様々な訓練を実施しました。

今回の訓練では、消防団協力事業所の専門的な技術や資機材を活かした高所作業車による高所からの救出訓練を取り入れ、災害対応能力の向上、連携強化を図ることができました。

また、各地域の被害状況を把握することを目的として、メールでの情報収集訓練も併せて行い、情報収集の強化も図りました。

これから火災が発生しやすい時季を迎えますが、火災のみならず多様な災害に適切に対応し、地域の安心安全に努めていきたいと思えます。



〔情報提供〓鹿角支部〕

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和2年		令和元年			同期比較	
	3月	累計	3月	累計	年計	3月	累計
建 物	11	39	15	42	198	- 4	- 3
林 野	3	3	1	1	32	2	2
車 輛	2	6	0	4	31	2	2
その他	10	13	4	4	95	6	9
合 計	26	61	20	51	356	6	10
死者数	1	3	1	6	18	0	- 3
負傷者数	1	4	3	20	87	- 2	-16

消防 半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

株式会社 高 義 商 会

(営業種目) { トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消 火 器 各 種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | 消防設備保守点検
トーハツポンプ | キンパイホース
各種消防機械器具 | 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp